

記念講演会

テーマ：人生に効く脳科学

～脳が創りだす 男女のミゾ、人生の波、時代の風

講師：株式会社感性リサーチ代表取締役社長 感性アナリスト 黒川 伊保子 様



突然キレル女と察せない男の「男女のミゾ」

私は脳科学の専門家ですが、元は人工知能のエンジニアです。辛い文句一つ言えない男子たちに混じり、人とロボットの会話を研究するうち、私は『男女で気持ちいいと思う会話が違う』ということに気がきました。その理由は、男女の感性の違いです。男性からよく「女はなぜ些細なことで突然キレルのか?」と尋ねられますが、古今東西、些細なことでキレル女は一人もいません。女性の脳は、過去の関連記憶を一瞬で思い出す天才です。これは子育てのための能力で、ママ友の話、テレビのワンシーン、母親や祖母の行動を全て脳裏に取り揃えます。今と同じ気持ちになった時の体験記憶を、一気に思い出す力です。また、記憶を想起した瞬間に脳内で再体験するため、記憶当時は理解できなかったことも理解できます。言いかえれば、男性が何か無神経なことを言うと、過去の無神経な発言を全部一瞬で思い出し、再体験するという。女性がキレたら、過去のツケを全部払わないといけません。

次に男性脳です。物言わぬ赤ん坊を育てる女性は“察する天才”でもあります。女性脳にとって“察する=大切にすること”。つまり“察してくれない=大切に

思われていない”と感ずます。一方、男性は“気付かない”という戦略の脳です。男性は生殖に命のリスクがないので、異性の粗探しをしません。金属の研磨面の0.何ミクロンの傷を見つけ出す男性が、妻の髪型の変化に気付けないわけです。逆に言えば、変化に緩慢なおかげでいちいち動揺することなく、普遍の仕事を成し遂げます。また、男性脳は優れた“空間認知力”の持ち主です。物事を空間として把握し、難しい世界観を理解したり、複雑な構造の図面を描いて組み立てたりするのが得意な男性脳は、“大きなことをする力”と言えるでしょう。

男女ではものの見方も違います。男性は全体をまばらに見て、空間を一気に把握するため、手前を見逃すことがあります。反対に、女性はなめるように見るため、針の先ほど細かいものも見逃しません。もし私にスパイロボットの開発依頼が来たら、この二つのビューセンサーを用意するでしょう。足元の地雷は見逃せないし、遠くから飛んでくるものへの対応も必要です。しかし、この二つを1体のロボットに載せようとすると、2つの答えが同時にできて固まってしまう。なので、女性脳型と男性脳型、2体のロボットがペアで動くのがロボットの理想形。つまり、男女は違うからこそ最強な“ペアの装置”なのです。

歳を重ねるほど大きくなる「人生の波」

脳を入力・演算・出力をする装置に見立てると、人生で最も頭がいいのは56～84歳の28年間と言われています。人の脳は28年毎に周期が起こります。28歳、56歳、84歳、そして112歳。実は、私たちの脳は112歳まで進化することが分かっています。28歳までは入力装置、その後28年間かけて脳を洗練させ

て、56～84歳が出力装置として最も役立つ頃です。84～112歳の役割も気になりますが、それはまだ研究中。長生きしてぜひ体験したいと思っています。

順を追ってみましょう。28歳までは単純記憶力のピークです。脳ががむしゃらにあらゆることを記憶しようとしています。四の五の言わずに働きましょう。30歳前後になると脳がクールダウンし、周りが見えてきて社会的自我が立つ頃です。30代の脳は失敗適齢期。たくさん失敗していかない回路を消すことで、勘が効く、センスの良い脳をつくります。40歳前後になると、いらぬ回路に電気信号がいなくなるため、物忘れが始まります。物忘れは老化でなく進化の証です。50代の脳は、ものごとの本質や人の資質を見抜く力がピークを迎えます。しかし、その回路の抽象度はまだ低い。自分と同じ道りを歩く後輩にアドバイスはできても、別の場面には転用できません。そして60代、回路の抽象度が上がり、直感の領域で本質を見抜けるようになるので、若い人の何倍も感性の情報を拾うことができます。わけの分からないことを喚く若者の、言葉の裏にある本当の言葉を聞いてあげることができる。脳の性能、人生の波は、歳を重ねるほど大きな波になるのです。

繰り返す「時代の風」を読み、追い風に乗る

脳には今見たものをとっさに使うための超短期記憶の箱があるのですが、人類の大多数がこの箱を7つ持っていると言われていて、そして7つの箱全てに情報が入った時、人は完全性を感じます。ラッキー7に七福神、虹の七色など、私たちの身の回りに“7”が溢れているのはそのためです。また、この情報に時間幅があった場合、7つ揃うと「一巡した」という感覚が脳に残ります。一週間が良い例です。さらに、人の脳は7年で飽きる傾向があります。7年目に真逆の感性が起こり、28年目に世の中が反転し、そして56年で一巡します。つまり、56年前の

大衆の感性を振り返ることで時代を予測することができます。例えば、色鮮やかなマーブルチョコレートが流行って56周年、その時マカロンが流行りました。スカイツリーの56年前は通天閣・東京タワーが建設されました。政治もそうです。1954年鳩山一郎首相の友愛政権の誕生から55年後の2009年、鳩山由紀夫首相の友愛政権誕生。1957年、岸信介首相が就任し日米安全保障条約を取り付けましたが、こちらも56年後の2013年、孫の安倍晋三首相が就任し、久しぶりに安保に手を付けています。そして経済。2020年東京オリンピックに向けた好景気に対し、東京オリンピックで頭打ちになると予想する方も多いのですが、実は昭和最大の景気“いざなぎ景気”は1964年東京オリンピックの後、大阪万博の前なのです。東京オリンピック後に大阪万博を控え、人々の気持ちが西へ転換し、それが経済に表れました。今回、大阪万博と同じ年回りで、リアモーターカーが西で走ります。

この様に56年で大衆の感性が一巡することを考えると2020年までに強まるキーワードは“使命”です。本質、本格、使命感、孤高、世界初、世界一といった、凛々しく尖った言葉に惹かれる時代へと入ります。私たちは今、面白い時代の入り口に立っています。目の前に横たわっている男女のミゾは悠々と渡り越せまじし、人生の波は後ろに行くほど大波になる。そして時代の風は今、追い風です。ミゾを上手に渡り、大波に乗って、追い風を捉えて行きましょう。

